【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の４の７第１項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年12月14日
【四半期会計期間】	第19期第２四半期(自　2020年８月１日　至　2020年10月31日)
【会社名】	株式会社ビューティガレージ
【英訳名】	BEAUTY GARAGE Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役CEO 野村 秀輝
【本店の所在の場所】	東京都世田谷区桜新町一丁目34番25号
【電話番号】	０３－５７５２－３８９７
【事務連絡者氏名】	経営管理グループ統括責任者 齋藤　高広
【最寄りの連絡場所】	東京都世田谷区桜新町一丁目34番25号
【電話番号】	０３－５７５２－３８９７
【事務連絡者氏名】	経営管理グループ統括責任者 齋藤　高広
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町２番１号)

第一部 【企業情報】

第１ 【企業の概況】

１ 【主要な経営指標等の推移】

回次		第18期 第２四半期 連結累計期間	第19期 第２四半期 連結累計期間	第18期
会計期間		自 2019年５月１日 至 2019年10月31日	自 2020年５月１日 至 2020年10月31日	自 2019年５月１日 至 2020年４月30日
売上高	(百万円)	7,711	8,372	15,730
経常利益	(百万円)	316	362	747
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益	(百万円)	163	197	408
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	158	187	398
純資産額	(百万円)	3,876	4,225	4,102
総資産額	(百万円)	7,245	9,289	7,283
１株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	25.81	31.41	64.48
潜在株式調整後１株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	―	―	―
自己資本比率	(%)	51.9	44.1	54.8
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	359	507	133
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△138	△329	△175
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△110	265	67
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	(百万円)	2,286	2,657	2,212

回次		第18期 第２四半期 連結会計期間	第19期 第２四半期 連結会計期間
会計期間		自 2019年８月１日 至 2019年10月31日	自 2020年８月１日 至 2020年10月31日
１株当たり四半期純利益金額	(円)	12.30	14.86

（注）１．当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
２．売上高には、消費税等は含まれておりません。
３．潜在株式調整後１株当たり四半期（当期）純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

２ 【事業の内容】

当第２四半期連結累計期間において、当社グループ（当社および当社の関係会社）が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

主要な関係会社における異動については、株式会社松風、株式会社まつげエクステンション研究所、MATSUKEN VIETNAM CO.,LTD及び株式会社和楽の株式を取得したため、また、株式会社ビュートピアを新規設立したため、当第２四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

第２ 【事業の状況】

１ 【事業等のリスク】

該当事項はありません。

２ 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第２四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済活動の自粛等の影響により、企業の業績や景況感が悪化し厳しい状況で推移しました。

美容業界におきましても、新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴う各店舗の休業措置や時短営業、顧客の不安心理増大に伴う来店数減少、新規出店の中止・延期等といった厳しい事象が続いておりましたが、緊急事態宣言明け後には通常営業に戻ったサロンが大半となり、徐々に回復基調となってきております。

そのような状況下、当社グループでは、成長加速のための積極投資を実行してまいりました。期初より業界全体の厳しい状況からマイナス影響を受けてはいたものの、WEBマーケティング施策の強化とコロナ禍影響による業界のデジタル化促進の追い風もあって、物販事業を中心に業績を順調に伸長することが出来ました。

この結果、当第２四半期連結累計期間における売上高は8,372,354千円（前年同期比8.6%増）、売上総利益は2,676,880千円（前年同期比10.3%増）、営業利益は353,183千円（前年同期比12.3%増）、経常利益は362,131千円（前年同期比14.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は197,644千円（前年同期比20.9%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

①物販事業

物販事業におきましては、インターネット通販サイト「BEAUTY GARAGE Online Shop」、全国主要都市のショールーム＆ストア＋法人営業チーム、カタログ通販誌「BG STYLE」および海外営業拠点を通して、理美容機器や化粧品・消耗品等のプロ向け美容商材を、国内外の理美容室、エステサロン、リラクゼーションサロン、ネイルサロン、アイラッシュサロン向けに提供しております。

当第２四半期連結累計期間におきましては、ECサイトのUI/UXの着実な改善と進化を継続することに加えて、アクティブユーザー数の増加と利用頻度向上施策に注力し、EC経由売上高のさらなる拡大を目指してまいりました。そして、化粧品・美容材料の専門店およびクイックデリバリーサービス拠点「ビューティガレージEXPRESSストア」を東京渋谷にオープン、兵庫県尼崎市に第２物流拠点として「西日本ディストリビューションセンター」を開設、翌日配送エリアの拡大と送料無料ランクの引き下げを実行するなど、美容サロンの利便性向上を図ってまいりました。新型コロナウイルス感染拡大の中、美容業界全体で遅れていたデジタル化が促進した影響もあって新規会員獲得数も大きく増加致しました。

この結果、EC売上高が前年同期比22.9%増（物販売上構成比80.5%）と伸長した貢献が大きく、物販事業全体としての売上高は6,900,418千円（前年同期比13.4%増）、セグメント利益は341,265千円（前年同期比18.5%増）となりました。

②店舗設計事業

店舗設計事業におきましては、連結子会社である株式会社タフデザインプロダクトにより東京・金沢・福岡・大阪・名古屋において店舗設計・工事施工管理を提供しております。

トレンドを捉えたデザイン性の高い店舗設計デザインの提案を行うことで独立開業を目指す顧客から高い支持を得ており、新規開業顧客に加えて、大手チェーン店本部からの受注も獲得してまいりました。当第２四半期連結累計期間におきましては、期初より新型コロナウイルス感染拡大の影響で美容サロン等の新規出店の中止・延期が相次いでいたことで、案件数が大幅に減少しておりましたが、第２四半期連結会計期間になってようやく前年を上回るペースにまで回復してきております。この結果、当事業の売上高は1,191,821千円（前年同期比14.2%減）、セグメント利益は30,465千円（前年同期比61.5%減）となりました。

③その他周辺ソリューション事業

その他周辺ソリューション事業におきましては、ビューティサロンの開業と経営に必要なサポートとして開業プロデュース、居抜き物件仲介、集客支援、講習・アカデミー、損害保険、システム導入支援、店舗リース、M&A仲介等の各種ソリューションサービスを、各種専門WEBサイトと全国主要都市のショールームを通して提供しております。

当第２四半期連結累計期間におきましては、新規サービスとして、美容サロン事業者に特化したビジネスクレジットカード「サロンプロフェッショナルカード」をリリースいたしました。各種サービスのうち、開業プロデュース、不動産居抜き物件仲介、店舗リースが堅調に伸長したことにより、当事業の売上高は280,115千円（前年

同期比17.3%増）、セグメント利益は27,307千円（前年同期比30.6%増）となっております。

(2) 財政状態の分析

(流動資産)

当第２四半期連結会計期間末における流動資産は、流動資産は、前連結会計年度末に比べて19.9%増加し、7,192,932千円となりました。これは、主に現金預金、売上債権及びたな卸資産の増加によるものであります。

(固定資産)

当第２四半期連結会計期間末における固定資産は、前連結会計年度末に比べて63.4%増加し、2,096,167千円となりました。これは、有形固定資産、無形固定資産及び投資その他の資産の増加があったことによるものであります。

(流動負債)

当第２四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べて40.9%増加し、3,590,534千円となりました。これは、主に前受金、仕入債務、１年内返済予定の長期借入金及び賞与引当金の増加によるものであります。

(固定負債)

当第２四半期連結会計期間末における固定負債は、前連結会計年度末に比べて133.0%増加し、1,472,898千円となりました。これは、主に長期借入金及び退職給付に係る負債の増加によるものであります。

(純資産)

当第２四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて3.0%増加し、4,225,666千円となりました。これは、主に自己株式の取得による減少57,088千円と配当金の支払に伴い利益剰余金の減少63,124千円があったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上に伴い利益剰余金の増加197,644千円があったことによるものであります。

(3)キャッシュ・フローの状況

当第２四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ444,821千円増加し、2,657,032千円となりました。

当第２四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果増加した資金は、507,125千円（前年同期は359,621千円の資金増加）となりました。これは、主に売上債権の増加があったものの、前受金の増加及び未払金の増加があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、329,479千円（前年同期は138,101千円の資金減少）となりました。これは、主に連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入及び支出があったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果増加した資金は、265,114千円（前年同期は110,028千円の資金減少）となりました。これは、主に長期借入による収入があったことによるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第２四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 生産、受注及び販売の実績

① 生産実績

当第２四半期連結累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同四半期比(%)
店舗設計事業	1,056,463	△12.0

(注) １．セグメント間取引については、相殺消去しております。
２．上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
３．金額は製造原価によっております。

② 仕入実績

当第２四半期連結累計期間における仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	仕入高(千円)	前年同四半期比(%)
物販事業	4,585,945	+17.9
その他周辺ソリューション事業	111,868	+23.7
合計	4,697,813	+18.0

(注) １．セグメント間取引については、相殺消去しております。
２．上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
３．金額は仕入価格によっております。

③ 受注実績

当第２四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同四半期比(%)	受注残高(千円)	前年同四半期比(%)
店舗設計事業	1,628,914	△9.3	716,207	+18.8

(注) １．セグメント間取引については、相殺消去しております。
２．上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

④ 販売実績

当第２四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称		販売高(千円)		前年同四半期比(%)
	区分	前第２四半期連結累計期間	当第２四半期連結累計期間	
物販事業		6,084,693	6,900,418	13.4
	理美容機器	2,840,244	3,159,372	11.2
	化粧品等	2,921,433	3,393,449	16.2
	金属スチール家具	323,014	347,596	7.6
店舗設計事業		1,388,311	1,191,821	△14.2
その他周辺ソリューション事業		238,730	280,115	17.3
合計		7,711,735	8,372,354	8.6

(注) １．セグメント間取引については、相殺消去しております。
２．上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

３ 【経営上の重要な契約等】

当第２四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第３ 【提出会社の状況】

１ 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	21,160,000
計	21,160,000

② 【発行済株式】

種類	第２四半期会計期間末現在発行数(株) (2020年10月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年12月14日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	6,376,000	6,376,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	6,376,000	6,376,000	―	―

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
2020年８月１日～ 2020年10月31日	―	6,376,000	―	768,385	―	719,652

(5) 【大株主の状況】

2020年10月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
野村　秀輝	東京都世田谷区	1,812,460	28.81
供田　修一	東京都世田谷区	716,273	11.39
GOLDMAN SACHS & CO.REG（常任代理人　ゴールドマン・サックス証券株式会社）	200 WEST STREET NEW YORK,NY,USA（東京都港区六本木６丁目10番１号六本木ヒルズ森タワー）	389,600	6.19
高橋　慧	東京都新宿区	292,700	4.65
野村　貴久	東京都世田谷区	292,687	4.65
NORTHERN TRUST CO.(AVFC)SUB A/C NONTREATY(常任代理人 香港上海銀行東京支店)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK（東京都中央区日本橋３丁目11-1）	255,500	4.06
樺島　義明	東京都世田谷区	241,806	3.84
ＢＮＹ ＧＣＭ ＣＬＩＥＮＴ ＡＣＣＯＵＮＴ ＪＰＲＤ ＡＣ ＩＳＧ（ＦＥ－ＡＣ）（常任代理人　三菱UFJ銀行）	ＰＥＴＥＲＢＯＲＯＵＧＨ ＣＯＵＲＴ １３３ ＦＬＥＥＴ ＳＴＲＥＥＴ ＬＯＮＤＯＮ ＥＣ４Ａ２ＢＢ ＵＮＩＴＥＤ ＫＩＮＧＤＯＭ（千代田区丸の内２丁目7-1）	174,000	2.77
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	東京都港区浜松町２丁目11-3	156,000	2.48
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140040(常任代理人　株式会社みずほ銀行)	USNY 225 LIBERTY STREET, NEW YORK, NEW YORK, U.S.A.（東京都港区港南２丁目15-1品川インターシティA棟）	149,200	2.37
計	－	4,480,226	71.21

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2020年10月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	―	―	―
議決権制限株式(自己株式等)	―	―	―
議決権制限株式(その他)	―	―	―
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 84,600	―	―
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,287,500	62,875	単元株式数は100株であります。権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。
単元未満株式	普通株式 3,900	―	―
発行済株式総数	6,376,000	―	―
総株主の議決権	―	62,875	―

② 【自己株式等】

2020年10月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式)株式会社ビューティガレージ	東京都世田谷区桜新町一丁目34番25号	84,600	-	84,600	1.3
計	―	84,600	-	84,600	1.3

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出後、当第２四半期累計期間における役員の異動はありません。

第４ 【経理の状況】

１　四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

２　監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の２第１項の規定に基づき、第２四半期連結会計期間(2020年８月１日から2020年10月31日まで)及び第２四半期連結累計期間(2020年５月１日から2020年10月31日まで)の四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年４月30日)	当第２四半期連結会計期間 (2020年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,212,210	2,676,382
受取手形及び売掛金	1,067,317	1,611,236
営業投資有価証券	154,521	154,521
商品及び製品	1,756,880	1,784,067
仕掛品	111,734	192,486
前渡金	297,590	361,683
その他	408,300	433,783
貸倒引当金	△8,265	△21,230
流動資産合計	6,000,291	7,192,932
固定資産		
有形固定資産	299,585	473,543
無形固定資産		
のれん	94,396	530,386
その他	275,768	257,958
無形固定資産合計	370,165	788,344
投資その他の資産	613,383	834,278
固定資産合計	1,283,134	2,096,167
資産合計	7,283,425	9,289,099
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,176,474	1,360,898
短期借入金	15,000	15,085
1年内返済予定の長期借入金	283,316	415,845
未払金	188,925	446,360
未払法人税等	192,241	216,693
前受金	187,747	368,295
賞与引当金	57,748	196,154
その他	447,255	571,201
流動負債合計	2,548,707	3,590,534
固定負債		
長期借入金	429,744	1,084,666
退職給付に係る負債	7,989	157,742
ポイント引当金	88,061	112,043
資産除去債務	44,907	54,324
その他	61,409	64,122
固定負債合計	632,112	1,472,898
負債合計	3,180,819	5,063,433
純資産の部		
株主資本		
資本金	768,385	768,385
資本剰余金	713,929	745,413
利益剰余金	2,609,227	2,736,185
自己株式	△97,907	△134,002
株主資本合計	3,993,634	4,115,982
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△20,825	△20,211
その他の包括利益累計額合計	△20,825	△20,211
非支配株主持分	129,797	129,895
純資産合計	4,102,606	4,225,666
負債純資産合計	7,283,425	9,289,099

（2）【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第２四半期連結累計期間】

（単位：千円）

	前第２四半期連結累計期間 (自　2019年５月１日 至　2019年10月31日)	当第２四半期連結累計期間 (自　2020年５月１日 至　2020年10月31日)
売上高	7,711,735	8,372,354
売上原価	5,284,641	5,695,474
売上総利益	2,427,094	2,676,880
販売費及び一般管理費	※１　2,112,621	※１　2,323,696
営業利益	314,472	353,183
営業外収益		
受取利息及び配当金	64	103
固定資産売却益	4,289	356
助成金収入	-	4,885
債務免除益	-	7,721
その他	3,731	3,249
営業外収益合計	8,085	16,315
営業外費用		
支払利息	1,279	1,742
為替差損	-	3,281
固定資産除却損	2,633	-
その他	2,390	2,343
営業外費用合計	6,303	7,367
経常利益	316,254	362,131
特別利益		
訴訟損失引当金戻入額	840	-
特別利益合計	840	-
特別損失		
減損損失	16,695	-
投資有価証券評価損	-	21,708
特別損失合計	16,695	21,708
税金等調整前四半期純利益	300,400	340,423
法人税、住民税及び事業税	171,245	211,240
法人税等調整額	△36,837	△59,242
法人税等合計	134,407	151,997
四半期純利益	165,992	188,425
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失（△）	2,483	△9,218
親会社株主に帰属する四半期純利益	163,509	197,644

【四半期連結包括利益計算書】
【第２四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第２四半期連結累計期間 (自　2019年５月１日 至　2019年10月31日)	当第２四半期連結累計期間 (自　2020年５月１日 至　2020年10月31日)
四半期純利益	165,992	188,425
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△7,593	△459
その他の包括利益合計	△7,593	△459
四半期包括利益	158,399	187,965
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	157,067	196,110
非支配株主に係る四半期包括利益	1,331	△8,144

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第２四半期連結累計期間 (自 2019年５月１日 至 2019年10月31日)	当第２四半期連結累計期間 (自 2020年５月１日 至 2020年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	300,400	340,423
減価償却費	81,440	80,895
減損損失	16,695	-
のれん償却額	22,794	21,715
投資有価証券売却損益及び評価損益（△は益）	-	21,708
債務免除益	-	△7,721
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△2,533	1,412
ポイント引当金の増減額（△は減少）	9,531	15,900
その他の引当金の増減額（△は減少）	136,815	140,315
受取利息及び受取配当金	△64	△103
助成金収入	-	△4,885
支払利息	1,279	1,742
有形固定資産売却損益（△は益）	△4,289	△356
売上債権の増減額（△は増加）	130,286	△392,878
たな卸資産の増減額（△は増加）	△232,401	49,622
仕入債務の増減額（△は減少）	△21,996	64,792
前渡金の増減額（△は増加）	49,847	△60,266
未払金の増減額（△は減少）	△36,359	163,339
前受金の増減額（△は減少）	202,075	180,548
その他	△120,224	76,035
小計	533,296	692,240
利息及び配当金の受取額	64	103
利息及び保証料の支払額	△1,276	△1,554
和解金の支払額	△11,433	-
助成金の受取額	-	4,885
法人税等の支払額又は還付額（△は支払）	△161,029	△188,549
営業活動によるキャッシュ・フロー	359,621	507,125
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	-	△1,850
有形固定資産の取得による支出	△63,022	△53,222
有形固定資産の売却による収入	57,654	3,619
無形固定資産の取得による支出	△22,180	△29,229
投資有価証券の取得による支出	△65,000	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	-	111,292
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	△246,193
敷金保証金の差入による支出	△45,059	△119,833
その他	△493	5,939
投資活動によるキャッシュ・フロー	△138,101	△329,479
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	△49,911	-
長期借入れによる収入	200,000	420,000
長期借入金の返済による支出	△99,359	△161,637
リース債務の返済による支出	△2,469	△2,473
配当金の支払額	△57,519	△63,110
非支配株主への配当金の支払額	-	△1,988
非支配株主からの払込みによる収入	-	46,300
自己株式の取得による支出	△100,768	△57,088
自己株式取得のための預け金の増減額（△は増加）	-	89,492
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	-	△4,380
財務活動によるキャッシュ・フロー	△110,028	265,114
現金及び現金同等物に係る換算差額	△8,650	2,060
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	102,840	444,821
現金及び現金同等物の期首残高	2,052,533	2,212,210
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	131,336	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	※１ 2,286,711	※１ 2,657,032

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第２四半期連結累計期間 (自　2020年５月１日　至　2020年10月31日)
当第２四半期連結会計期間より、株式会社松風、株式会社まつげエクステンション研究所、MATSUKEN VIETNAM CO.,LTD及び株式会社和楽の株式を取得したため、また、株式会社ビュートピアを新規設立したため、連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

※１　販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第２四半期連結累計期間 (自　2019年５月１日 至　2019年10月31日)	当第２四半期連結累計期間 (自　2020年５月１日 至　2020年10月31日)
給料手当	424,415千円	495,952千円
賞与引当金繰入額	110,755 〃	116,088 〃
貸倒引当金繰入額	△2,533 〃	1,433 〃
ポイント引当金繰入額	73,950 〃	89,137 〃
製品保証引当金繰入額	7,664 〃	7,968 〃
株主優待引当金繰入額	1,620 〃	1,650 〃

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※１　現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第２四半期連結累計期間 (自　2019年５月１日 至　2019年10月31日)	当第２四半期連結累計期間 (自　2020年５月１日 至　2020年10月31日)
現金及び預金	2,286,711 千円	2,676,382 千円
預入期間が３ヶ月を超える定期預金	- 〃	△19,350 〃
現金及び現金同等物	2,286,711 千円	2,657,032 千円

(株主資本等関係)

前第２四半期連結累計期間(自　2019年５月１日　至　2019年10月31日)

１　配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	１株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年６月13日 取締役会決議	普通株式	57,379	9.00	2019年４月30日	2019年７月26日	利益剰余金

２　基準日が当第２四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第２四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第２四半期連結累計期間(自　2020年５月１日　至　2020年10月31日)

１　配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	１株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年６月12日 取締役会決議	普通株式	63,124	10.00	2020年４月30日	2020年７月31日	利益剰余金

２　基準日が当第２四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第２四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

（企業結合等関係）

取得による企業結合

当社の連結子会社である㈱アイラッシュガレージは、2020年８月31日付で㈱松風及び㈱まつげエクステンション研究所の株式を取得し、㈱まつげエクステンション研究所の100%子会社であるMATSUKEN VIET NAM CO.,LTD.（以下３社を総称して「松風グループ」）を含めてグループ会社化いたしました。

当社は、2020年10月８日付で㈱和楽の株式を取得いたしました。

１．松風グループの取得

（１）企業結合の概要

①被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称	㈱松風	㈱まつげエクステンション研究所
事業内容	プロ用まつげエクステンション関連製品の企画・販売	プロ用まつげエクステンション関連製品の製造
資本金の金額	13,000千円	9,000千円

②企業結合を行った主な理由

松風グループは、プロ用まつげエクステンション関連製品の企画・製造・販売を行う企業集団であり、まつげエクステンション業界では老舗の著名ブランド・メーカーであります。一方、当社の連結子会社であるアイラッシュガレージは、業界特化型商社として、まつげエクステンションサロン向け商材流通のプラットフォーマーとしての地位確立を目指しております。松風グループをアイラッシュガレージのグループ会社にすることにより、新たに製造部門を保持することになり、独自ブランドの保有に加えて当社顧客および取引メーカーからのOEM受託事業の拡大などの大きな相乗効果を創出可能であり、当社グループとして一層の企業価値向上に資すると判断したためであります。

③企業結合日

2020年８月31日

④企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

⑤企業結合後の名称

変更ありません。

⑥取得した議決権比率

㈱松風　53.8%（残る議決権は100%議決権を取得した㈱まつげエクステンション研究所が保有しており、㈱アイラッシュガレージは間接的に全議決権を取得しています）

㈱まつげエクステンション研究所　100.0%

⑦取得企業を決定するに至った主な根拠

㈱アイラッシュガレージが現金を対価として株式を取得したことによるものです。

（２）四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2020年９月１日から2020年10月31日

（３）被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	
現金	444,833千円
取得原価	444,833千円

（４）主要な取引関連費用の内容及び金額

アドバイザリー費用等　48,550千円

（５）発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

①発生したのれんの金額

376,262千円

②発生原因

今後の事業展開によって期待される超過収益力であります。

③償却方法及び償却期間

７年間にわたる均等償却

（６）企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	447,809千円
固定資産	76,405千円
資産合計	524,214千円
流動負債	50,970千円
固定負債	404,673千円
負債合計	455,644千円

２．㈱和楽の取得

（１）企業結合の概要

①被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称	株式会社和楽
事業内容	美容業務用品器具の販売
資本金の金額	10,000千円

②企業結合を行った主な理由

株式会社和楽は、幅広い取扱いメーカーの商品ラインナップと、高い商品提案力・コンサルティング能力を持つ中堅美容ディーラーであり、子会社化により、美容商材流通業界においてオンラインとオフラインを融合したサロン向けサービスの提供と商品ラインナップの大幅な拡充を実現することができると判断したためであります。

③企業結合日

2020年10月８日

④企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

⑤企業結合後の名称

変更ありません。

⑥取得した議決権比率

67.3%

⑦取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

（２）四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

当第２四半期連結会計期間より同社を連結の範囲に含めております。なお、当第２四半期連結会計期間においては、貸借対照表のみを連結しており、当第２四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書には、被取得企業の業績は含まれておりません。

（３）被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	
現金	39,410千円
取得原価	39,410千円

（４）主要な取引関連費用の内容及び金額

財務及び法務調査費用等　　1,400千円

（５）発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

①発生したのれんの金額

80,617千円

②発生原因

今後の事業展開によって期待される超過収益力であります。

③償却方法及び償却期間

５年間にわたる均等償却

（６）企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	315,157千円
固定資産	170,474千円
資産合計	485,631千円
流動負債	219,190千円
固定負債	307,649千円
負債合計	526,839千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第２四半期連結累計期間(自　2019年５月１日　至　2019年10月31日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)１	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)２
	物販事業	店舗設計事業	その他周辺ソリューション事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	6,084,693	1,388,311	238,730	7,711,735	-	7,711,735
セグメント間の内部売上高又は振替高	41,412	35,995	12,527	89,936	△89,936	-
計	6,126,106	1,424,307	251,258	7,801,672	△89,936	7,711,735
セグメント利益	287,936	79,100	20,902	387,940	△73,467	314,472

(注) １．セグメント利益の調整額△73,467千円には、セグメント間取引消去32,866千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△106,334千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

物販事業に属する連結子会社BEAUTY GARAGE MALAYSIA SDN.BHDに係るのれんについて、当初想定していた収益の達成に遅れが生じており、計画値の達成には時間を要すると判断したことから、未償却残高16,695千円を減損損失として特別損失に計上しております。

当第２四半期連結累計期間(自　2020年５月１日　至　2020年10月31日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)１	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)２
	物販事業	店舗設計事業	その他周辺ソリューション事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	6,900,418	1,191,821	280,115	8,372,354	-	8,372,354
セグメント間の内部売上高又は振替高	25,525	19,506	10,618	55,650	△ 55,650	-
計	6,925,943	1,211,328	290,733	8,428,005	△ 55,650	8,372,354
セグメント利益	341,265	30,465	27,307	399,038	△ 45,854	353,183

(注) １．セグメント利益の調整額△45,845千円には、セグメント間取引消去30,075千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△75,930千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（１株当たり情報）

１株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後１株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第２四半期連結累計期間 (自　2019年５月１日 至　2019年10月31日)	当第２四半期連結累計期間 (自　2020年５月１日 至　2020年10月31日)
(1) １株当たり四半期純利益金額	25.81 円	31.41円
（算定上の基礎）		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	163,509	197,644
普通株主に帰属しない金額(千円)	―	―
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	163,509	197,644
普通株式の期中平均株式数(株)	6,334,904	6,291,848
(2) 潜在株式調整後１株当たり四半期純利益金額	―	―
（算定上の基礎）		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	―	―
普通株式増加数(株)	―	―
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後１株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	―	―

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年12月11日

株式会社　ビューティガレージ
取　締　役　会　御中

有限責任監査法人　トーマツ
東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	藤　本　貴　子　㊞
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	中　山　太　一　㊞

監査人の結論
当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ビューティガレージの2020年5月1日から2021年4月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年8月1日から2020年10月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年5月1日から2020年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。
当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ビューティガレージ及び連結子会社の2020年10月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠
当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任
経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。
四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。
監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・　主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

・　継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・　四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

・　四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。

監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上

（注）１．上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
２．XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。